

ケース 4.1 フランスの歴史における移民と国民

以下の文章は、イヴ・レキンの有名な『フランスのモザイク (*Frenchmosaic*)』に依拠したものであり、フランスが近代国家となるまでの複雑なエスニック的起源を明らかにしている。

古代のゴール (Gaul) の領域は、今日のフランスの領土とほぼ一致する。紀元 5 世紀の西ローマ帝国の崩壊の時期に同地域に住んでいたのは、文化的にも政治的にも多様な人々であり、ローマ市民や兵士そして奴隷、古くから土着していたゲルマン人の部族、後になって移住してきた部族も含まれ、同地域は多様な人々によるパッチワークのようなありさまだった。政治的な中心はいくつかに分かれていた。英国の西に住んでいたケルト人はサクソン人の侵略から逃れるためにドーヴァー海峡を越えて今日のブルターニュに移住し、フランク王国の基礎を築いた人々と戦っていた。

ノース (古代ノルウェー) 人の侵略によりフランク王国は広範囲にわたり被害を受けたが、古代ノルウェー人は紀元 900 年頃より現在のノルマンディ地方に定住した。フランク王国は近隣の地域や人々を徐々に吸収しながら拡大したが、そのプロセスは長期にわたるものであった。フランス人としてのアイデンティティやフランス人としての意識はゆっくりと醸成されていった。中世のフランスの人々の生活は、村やその近辺に限られたものではあったが、人々は境界の外に別の世界があることは認識していた。フランク王国の人々にとり、ブルターニュやノルマンディ、そしてラングドック地方の人々は外国人であった。

しかも、さらに新来の人々もいた。イタリアからの商人や芸術家に加え、傭兵たち、巡回布教師や学者、音楽家も来住していた。さらには北アフリカや地中海東部の国々やスペインから連れて来られたムスリム奴隷たちもいた。また、ユダヤ人やジプシーたちもやってきた。ユダヤ人は多くの人々の間に点在していただけでなく、居住地の言語を話していた。十字軍の時代には、ユダヤ人は多くの国民のスケープゴートにされ、暴力や迫害の犠牲者となった。ユダヤ人は国民とは分離されゲットーを形成して住むのが当たり前になっていった。1306年にフランス国王フィリップ 14 世 (端麗王) は、当時 10 万人ほど住んでいたユダヤ人に国外退去を命じ、彼らの財産を奪い取った。しかし、1315年には経済的観点から国王ルイ 10 世は、ユダヤ人たちに門戸を開き帰還させた。ユダヤ人がキリスト教国民と同じ法的地位をついに獲得するのは、1789年のフランス革命まで待たなければならなかった。しかし、国民のなかにはユダヤ人をフランスにおける外国人であるとみなし続ける者がいた。今日でも、極右政党の「国民戦線 (FN)」は反ユダヤ主義を声高に叫んでいる。

ジプシーは、ロマ (Rom) あるいはツィガニー (Tziganes) とも称されるが、現在のインドより移住した人々の子孫である。ジプシーは 50 人から 100 人単位で王国内を移動しつつ、行商していた。ジプシーは、増えるともまなく国民からの敵意を浴びるようになった。フランスのアンジェのような都市では、1498年にジプシーの居住を禁止したが、その後、国王フランソワ 1 世

ケース 4.1 フランスの歴史における移民と国民

は布告をだし、ジプシーが王国内に住むことを禁止した。ジプシーはその後帰還しフランス社会の一員となったが、すべての国民が彼らを受け入れたわけではなかった。ユダヤ人同様に、ジプシーは第二次世界大戦中にナチス・ドイツによって抹殺の対象となった。20 世紀のジェノサイドはヨーロッパへの移民の歴史に深く根ざしたものである。ユダヤ人とジプシーはヨーロッパにおける人種差別の対象となり、もっとも長い間迫害されてきた人々であろう。

15 世紀は、近代国民国家の黎明期を迎え、大きな転換期となった時期である。この世紀は同時に、大航海時代の夜明けとも重なり、ヨーロッパ人が地球全体に活動領域を広げ、世界を領土化していく長い時代の幕開けの世紀ともなった。18 世紀には、王権神授説は正当性を失い始めていた。1789 年のフランス革命を導いた思想には、人民主権の原理、国民国家の概念、国民はひとつの国家に属するという考えが含まれていた。これらの考えは、われわれのテーマにとって重要である。国民国家に沿って人々が組織化されていないのであれば、国際移民という概念が意味をなさなくなるからである。今日では普遍的に認められるようになったが、主権概念には、国家が人々の入国と出国を管理する権限が含まれている。今日では、不法移民が政治的に厄介な問題とみなされるようになっているが、それは、主権国家の大権がそのことによって脅かされるとみなされやすいからである。

【参考文献】

Lequin, Y. (ed.) (1988) *La Mosaïque France* (Paris: Larousse).